

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 99 号	氏名	福島 直美
学位審査委員	主査	片峰 茂	
	副査	朝長 万左男	
	副査	松山 俊文	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 本研究は、HTLV-I 関連脊髄症 (HAM/TSP) に特徴的な 2 つの病態、即ち HTLV-I 複製の高進と Th1 系サイトカイン IFN-<math>\gamma</math> 産生の高進、を一元的に説明すべく両者の遺伝子発現を正に制御する p38MAPkinase-CREB/ATF シグナリングの関与を解明しようとしたものであり、発想に特色があり研究目的は高く評価できる。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 申請者の研究グループが独自に樹立した HAM/TSP 由来の T 細胞株に加えて患者末梢血 CD4(+) リンパ球の解析も行った点は評価できる。コントロールの取り方もほぼ妥当である。ウイルス蛋白 p19, IFN-<math>\gamma</math> 及び p38 MAPK の定量法も妥当ある。とくに p38 MAPK の特異的阻害剤 SB203580 の IFN-<math>\gamma</math> 及び p19 産生量に及ぼす影響を調べた点は結論を正当化する上で評価できる。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 実験結果からを HAM/TSP の病態に p38MAPkinase-CREB/ATF シグナリング経路の活性化を推定した考察の過程は妥当である。また SB203580 が IFN-<math>\gamma</math> 及び p19 産生を低下させることより、治療への SB203580 の適用の可能性に言及した点も評価できる。</p>			
<p>以上のように、本論文は HAM/TSP の病態解明さらには治療法開発にきわめて大きな貢献をなしたものであり、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			